

群馬県立 新田暁高等学校

テーマ

週末課題

目的

学習習慣の定着



神原先生（左：1学年主任/英語）
 橋本先生（右：1学年担任/音楽）

群馬県立新田暁高等学校では、先陣を切つて1学年でスタディサプリの利用を開始。組織としてのICT教材利用は初めて、また学習時間ゼロの生徒も少なくない環境で、どのように導入し、どのような効果が見られたかを伺いました。

「この取り組みをはじめたきっかけ」
 専門教科の特性上、英語はICTと相性がよく、以前から文法図解のパワーポイントなどを授業で使用していました。そのためスタディサプリの利用に抵抗はありませんでした。（神原先生）

音楽の授業でも視覚情報で伝えられるICT教材は有効です。特に本校の生徒には合っていると感じますし、板書に時間を取られないのも魅力です。（橋本先生）

スタディサプリのような学習支援サービスの導入にあたり、重要だった点はふたつ。ひとつは率先して使ってみる教員がいて、それをサポートする環境があったこと。学年主任が中心となって、各担任が生徒の取り組み状況をチェックして声かけを行うなど、役割分担によってスムーズに導入することができました。もうひとつは、生徒に学習習慣をつけるため、定期的な活用法を探ること。今回は週末課題を取り入れました。（神原先生）

主任のリーダーシップのもと、意見を出し合いながらトライ&エラーにより本校の生徒に合った形を模索しています。（橋本先生）

「実際の取り組み」

学年主任から水曜に週末課題を配信し、月曜の朝に提出チェックを行っています。（橋本先生）

未提出者には、放課後に1時間半の補習を実施。放課後までに週末課題を終わらせてくる生徒も多いので、補習時間に行う学習内容は本人に任せています。また、基礎の定着を促すためにフォロアップ配信機能を利用しています。今まではテストを「やりっぱなし」になっていましたが、スタディサプリでは問題が解けていない生徒が一目瞭然。発破をかけやすく、個々の生徒が理解できるまで繰り返しフィードバックができるようになりました。（神原先生）

「生徒の変化感」

外部テストの結果を見ると、学力レベルがワンランク上がった生徒が増えています。自己採点をさせているので「やった！今回は補習クラスから抜けられた！」と喜ぶ姿が見られました。（神原先生）

今まで自習はテスト前に少しだけ、またはゼロだった生徒達も、点数が上がることで「毎日の積み重ねが活きている」と実感しているようです。最初は週末課題を煩わしく思っていた生徒も、配信が遅れると「今週はないの？」と気にかけるようになりました。（橋本先生）

学習への意欲が芽生えたようですね。徐々にですが、学習の習慣化と基礎学力の定着を進められていると思います。（神原先生）

「先生の変化感」

ICTなしで週末課題を実施すると、配布して回収し、チェックをして補習をさせて、再回収して再提出させて…と、週明けの教員の業務量が膨大になってしまいましたし、教員の足並みを揃えるのも容易ではありません。（神原先生）

今は配信の設定をしたら月曜日の朝に数分でサッとチェックして、補習の生徒をリストにして配布するだけで済んでいます。（橋本先生）

実際の取り組み

毎週水曜日に学年主任の先生が課題を配信（国・数・英）。月曜の朝に担任がチェックして、未提出の生徒は居残り授業に。

水曜日に課題を配信

配信後、生徒たちは各自課題に対応

月曜朝に担任が提出状況を確認

月曜放課後に補習

未提出の生徒をリストアップ

群馬県立新田暁高等学校



【学校情報】

1924年に綿打実科女学校として創設。以来、長い歴史と変遷を経ながら発展し、1996年に県内初の総合学科高校として、新田暁高等学校に生まれ変わりました。文理総合（文系、理系）、生活文化、情報ビジネス、社会福祉、食文化、機械・電子技術の6つの系列を設けています。